



横浜市立一本松小学校

7月号

学校だより

横浜市立一本松小学校

校長 高桑 透

令和6年6月28日



『多文化共生の平和な世界へ』

校長 高桑 透

日に日に暑さが増してきました。気象庁の長期予報では今年の早い段階から今までにない猛暑になるとされてきましたが、正にその猛暑がやってこようとしています。先週末の雨で関東地方も梅雨入りしましたが、湿気も多く日差しが強くない日でも、蒸し暑く心配な日々が続いています。校庭には熱中症計を設置して、日々数値を確認しています。子どもたちの安全を第一に過ごせるように工夫して教育活動をしていきます。外に出るときは帽子をかぶったり適宜水分補給をしたりするなど、ご家庭でも子どもたちに伝えてください。皆さんと一緒に子どもたちの命を守っていきたいと思います。

先月14日に、横浜国際平和スピーチコンテスト西区予選会が開かれました。本校では、5・6年生全員が「国際平和のために、今自分ができること」をテーマに原稿を作り、クラス選考、学校選考を経て6年生の代表がこの予選会に臨みました。

「差別をなくすために」というタイトルで、差別や争いの無い平和な世界を作ることは、全人類が望む姿であるはずだが、実際にはいろいろな争いが絶えない。そのためには、全ての人を同じように扱うだけでなく、相手をもつ文化や背景を正しく学んで理解し、受け入れることが大切であると、力強く語ってくれました。

本校でも、外国につながる児童が多数在籍しています。国際的な観光都市である横浜には、多数の外国の方が訪れます。また、開港以来様々な文化を取り入れてきたこともあり、たくさんの外国の方が暮らしています。観光客も増え、繁華街を訪れば、どこからか日本語以外の言語が耳に入ってきます。いろいろな方とふれあう機会が多い横浜だからこそ、国籍に関係なく、相手を尊重し、思いやりをもって関わりあうことで、安心して過ごせる街にしていかなければならないと思います。そんな「多文化共生」の未来を作っていくのは、子どもたちです。先日6年生の修学旅行で、ドイツからいらしたご夫婦と東照宮の入口でいっしょになりました。にこにこ子どもたちを見てくださいだったので、子どもたちに、話しかけてみればと促してみました。英語であいさつをかわし、握手をして、どこからいらしたのかと訪ねることもできました。その場にいたみんなが笑顔になり素敵な時間になりました。横浜独自で行っている国際理解教育の積み重ねも、横浜に生きる子どもたちに必要だと始まったものです。その積み重ねを感じた一コマでした。

多文化共生の考え方は、外国の方々との関係だけではありません。一人ひとりの考え方や価値観など、全て違うものです。それでも、お互いのことを理解し、尊重し、受け入れることが、多文化共生であり、国際平和に必ず繋がるものだと信じています。まずは身近なところから、日々の学校生活から実践していきます。